



令和2年

8月号

保育所だより

社会福祉法人平田保育会
みなみ保育所
62-2374
090-5700-9459

～夏の遊びの様子～



くま組～虫取りごっこ・ボディペイント



きりん組～プール・シャボン玉



ぞう組～愛宕山プール（平田保育所との交流保育）



雨降りが続く蒸し暑いですが、いよいよ梅雨が明けました。子どもたちは暑さに負けず元気いっぱい、水遊びやプール遊びなど目を輝かせて遊んでいます。

子どもたちは空模様を見ながらプール遊びを心待ちにしており、水を怖がる子どもも少なく、顔つけやバタ足、沈む玩具拾いなどして、体全体で水の感触を楽しんでいます。入った後は「あー楽しかった！」と口々に言って満足そうな表情です。

また、見た目も涼しい色をつけ冷やした寒天を使って、夏ならではの遊びも楽しんでいます。ひき続き夏の遊びが楽しめるよう、素材を工夫したり一人一人の見つけた楽しさに共感したりしていきたいと思っています。

今月の終わりには“みなみっこまつり”を予定しています。当日を楽しみにしながら子どもたちと準備をすすめているところです。保護者の皆様のご理解ご協力のもと楽しいおまつりにしたいと思っておりますので、ぜひ、お越しください。

○保育目標～夏ならではの遊びを楽しもう

今月も、水遊びやプール遊び・寒天・色水遊び・染め紙などのいろいろな感触を味わいます。素材からシャボン玉液を手作りし、様々な道具を使って飛ばし方を試したり、ボディペイントなど全身を使って遊んだりします。

また、みなみっこまつりに向けておまつりの雰囲気を楽しめるような制作をしたり、和太鼓の音やみこしの掛け声を聞いたりし、おまつりごっこを楽しみます。

○生活目標～生活リズムを整えよう

感染症や熱中症などの予防には『早寝・早起き・朝ご飯・朝ウンチ』の生活リズムを整えることがとても大切です。大人の生活に合わせるのではなく、子どもの生活リズムを中心に毎日の夕食や入浴、就寝と起きる時間を決め、休日も崩さないことが生活リズムを整えるポイントです。

8月の行事予定

- 3日(月) 身体測定週
 - 5日(水) 一日保育士①(3歳児以上)
 - 7日(金) <ふれあいデー>七夕会
 - 10日(月) 山の日(祝)
 - 12日(水) 布団持ち帰り
 - 13日(木) ～15日(土) 希望保育
 - 18日(火) 誕生会
 - 19日(水) 避難訓練
 - 20日(木) 一日保育士②(3歳児以上)
 - 〃 集金日
 - 28日(金) 布団持ち帰り
 - 29日(土) みなみっこまつり
 - 31日(月) プール納め・巡回相談
- ★印の行事につきましては後日お便りで詳しくお知らせします。

9月の主な行事

- 4日(金) 一日保育士③(3歳児以上)
- 10日(木) 一日保育士④(3歳児以上)

お知らせ・お願い

●ボランティアについて 11日(火)・12日(水)
平田高校3年生の生徒3名が、保育ボランティアをします。よろしくお祈りします。

●実習生について 17日(月)～31日(月)
湯浅さん(大学3年生)が実習します。よろしくお祈りします。

●ふれあいデー「七夕会」について 7日(金)
祖父母の皆さんと一緒に笹に飾りつけをした後、出し物を見たり平田音頭を踊ったりして楽しみます。

●希望保育について 13日(木)～15日(土)
この日は希望保育(於:平田保育所)とさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。保育を希望される方は弁当と水筒を持ってきてください。

●みなみっこまつりについて 29日(土)
29日(土)は時間帯を分けて三部方式で行います。ご家族で楽しいひと時を過ごしていただけるよう計画しているところです。

*ご寄贈ありがとうございました

保護者様～衣類 保護者様～きゅうり・プチトマト
更生保護女性会様～アルコール消毒

職員出張のお知らせ

18～20日 キャリアアップ研修(幼児教育)水師

ひよこ組～水遊び



りす組～寒天遊び

うさぎ組～プール遊び



ほっとルーム

～あきらめない心の育ちと大人のかかわり～

あきらめない心をはぐくむには、0歳からスタートします。それは、子どもからSOSである「泣き」に、安定した愛着関係にある大人が気づき、言葉をかけて世話をし、子どもが安心できる、というやり取りを繰り返すことにあります。

子どもはサインを出せば愛着者が応えてくれる見通しをもつようになります。この見通しが、自分がサインを出すことへの自信と自分を信頼する基盤になります。愛着を基盤にした自己肯定感の育ちです。

1歳後半の万能感が2歳代で崩れて有能感に変わるイヤイヤ期の発達過程を信頼して受け止めていくことも大切な役割です。そして、子どもが見つけた遊びを大人も夢中になって一緒に楽しみ、子どものできない悔しさや悲しさを大人がそのまま受け止めることで、子どもは自分への信頼を取り戻し、もっと頑張りたいと思う気持ちやもっと楽しみたい気持ちをはぐくみ、繰り返してチャレンジしていきます。これがあきらめない心になります。

(参考文献～ぜんほきょう2020年6月号)

身近な大人との愛着関係(怖いことや困ったことが起きても安心できる人がいる)の確立が「やってみよう」「できた」「やってみたらできるはず」という子どもの気持ちをはぐくみます。“ありのまま”を受け止めてくれる大人の存在が子どもの“心の基盤”となるのです。

職員について

*わにぶち保育所から田中さや保育士が異動します。また、渡部利子保育士、串崎まどか保育士が勤務します。

*原保育士は結婚して、姓が古安になりました。